



持続可能な建築空間を利用者の視点で考える

長澤 夏子

利用者の視点で建築環境デザインを考える

建築計画

環境工学

インクルーシブ



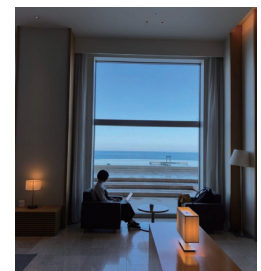
未来のライフとワーク

多拠点居住や、女性の起業家を生み出すオフィスなど、新しいライフ・ワークの調査を行なっています。研究室のミーティングも、さまざまな場所を繋いで、環境の特性を探ります。



ベッド型乳がん検査機

痛くない、被曝がなく若い女性にも適した新しい検査機の開発をサポートしました。



新しい働く場

ワーケーション・コワーク・テレワーク



高断熱住宅の省エネと住まい方研究

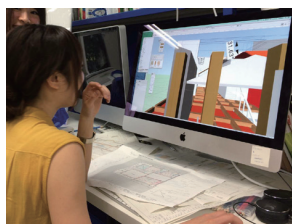
ZEH（ゼロエネハウス）が急激に普及してきます。それにあった新しい暮らし方とは?実測調査とアンケートなどから探ります。

人にとっての建築、 環境からみた建築

人の行動や社会的側面と環境の相互作用をあつかがのが建築計画学です。「良い都市・建築」には様々な評価の視点があります。建築やインテリアの評価を、さまざまな人が利用しやすいユニバーサルデザインを人間工学の実験をもとに提案しています。また環境心理学や生理計測から、健康を増進する住まいや建築を研究しています。また社会の変化に対応するため、現代では建築の必須項目であるエネルギーの課題に、環境面と利用者の両面からアプローチし、自治体、開発者、設計者や利用者など多くの人と共創しています。

実測調査やインタビューなど調査手法

住まい、ワークプレイス、学校、避難所、商業建築、美術館、高齢者施設、オフィス、トイレ、都市、商店街や繁華街など、身近な空間が対象です。多くの現地を見学し調査を行ないます。研究には計測機器をつかうなど、環境や人のデータをとり数量的な分析を行ったり、インタビューや空間観察を行なう質的調査もあります。環境から人への影響を3DのCGを用いて仮想空間の実験も行います。



3Dモデルの制作

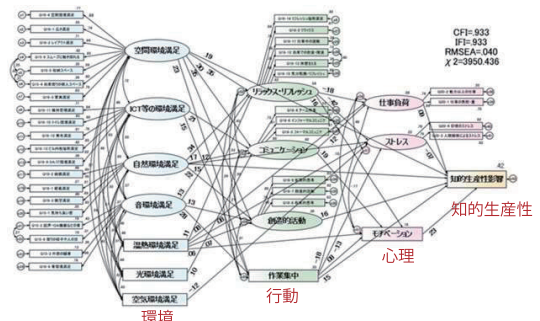
多くの企業の方と共に、実際の社会の課題をテーマとした研究にもチャレンジしています。



群衆流動の分析による歩行空間の評価

大規模調査のデータを用いた構造化

ワーカーへのWebアンケートでオフィスの環境に満足か、生産性が高いかなどを聞きデータを解析すると、オフィス環境の改善で知的生産性が高まるが、環境の何が影響するか、は人により違った。画一的なオフィスではなく働く環境を好きに選べると良いことが数量的に示された。AI設計などへつなげたい。またコロナ後は、自然環境などの重要性が増し、業務機能だけでなくリラックス・リフレッシュがの空間が、健康面や知的生産性の向上に繋がる鍵となっている。



ワーカーの「環境から知的生産性」のSEMモデル